

令和5年度の取組み

令和5年度は、助産師学科・看護学科ともに新カリキュラムがスタートして2年目となり、看護学科では、1・2年生は新カリキュラム、3年生は旧カリキュラムで運用しました。昨年度に引き続き、旧カリキュラムで入学した学生が、新カリキュラムの科目を履修する場合の読み替えや、読み替えができなかった科目の補習講義・補習実習が滞りなく実施でき、単位を修得できるよう、全教員で一丸となってサポートする体制と環境づくりに取り組みました。

また、新型コロナウイルス感染症が、令和5年5月8日に2類相当から5類に移行した後も、本校は看護師・助産師基礎教育の専門学校として、年間を通して感染・重症化リスクの高い方々が生活する医療機関、高齢者施設等での臨地実習を実施していることから、基本的な感染対策（マスクの着用、手洗い・手指消毒、換気）を引き続き行ってきました。こうした対策と合わせて、学生・教職員ともに継続した健康管理を適切に行い、臨地実習をはじめ、教育活動を円滑に実施することができました

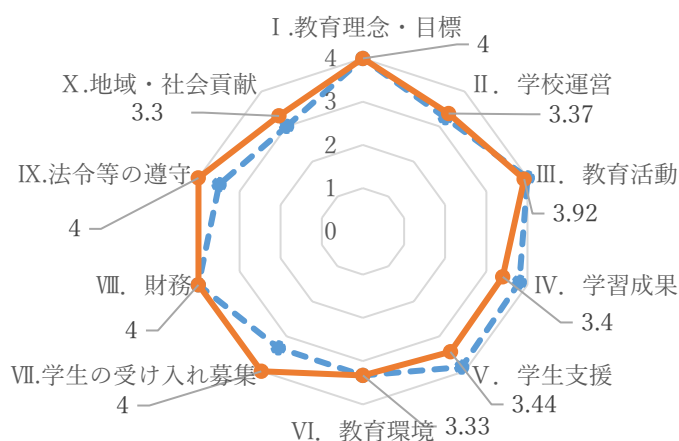
看護学科の学生受け入れ募集については、令和5年度の入学者が79名にとどまったことから、AO入学試験の新設や、学校説明会及び少人数見学会等の回数を増やすなど、入学者確保に努めた結果、令和6年度は、102名が入学しました。

自己点検・自己評価

社会の変化に伴い医療・看護に対するニーズが多様化する中で、質の高い看護を提供できる助産師・看護師の育成は本校の責務であると考えます。したがって本校では、教育の質の向上を目的に、専修学校における学校評価ガイドラインに基づき、I.教育理念・目標、II.学校運営、III.教育活動、IV.学修成果、V.学生支援、VI.教育環境、VII.学生の受け入れ募集、VIII.財務、IX.法令等の遵守、X.地域・社会貢献という10の大項目と59の小項目について評価を行っています。評価尺度は、適切（4点）・やや適切（3点）・やや不適切（2点）・不適切（1点）の4段階評価となります。

令和5年度 神奈川県立衛生看護専門学校 自己点検・自己評価

—●— 令和4年度 —●— 令和5年度



結果

全体の平均は3.6（前年度3.6）でした。昨年度と比べ、大項目の平均は、「IV学習成果」、「V学生支援」で低下がみられます。「IV学習成果」は、助産師学科において、学生の就職率は100%であったものの、県内就職率が72%と低迷していること、「V学生支援」は、学習支援、生活指導において、全体指導だけでは指導が浸透しないことが多くなり、個別指導も実施しているが、個別対応が必要な学生が増加したことにより、対応に苦慮していることが主な要因と考えられます。

一方で、「VII学生の受け入れ募集」、「IX法令順守」、「X地域・社会貢献」は、高くなりました。「VII学生の受け入れ募集」は、ホームページを改善するとともに、学校説明会に在校生が参加するなど、教員と学生が協力して学生確保の取組を行ったこと、「IX法令順守」は、各種法令に則り適切に学校運営を行っていることに加えて、令和5年度から学校関係者評価を行い、評価結果を踏まえ、より一層の教育の質の向上に取り組んだこと、「X地域・社会貢献」は、コロナ前と同様に近隣自治会にも周知し、一般の方も来場して文化祭が実施できたことなどが評価されたと考えられます。

また、「IV教育環境」は、昨年度と変わらず低くなっています。これは、教育用オンライン電子カルテの導入や電子教科書(タブレット端末)の導入など、ICTを活用しているにもかかわらず、校内のWi-Fi環境の整備が進まなかったことが要因と考えられます。

今後も引き続き、入学生の確保にしっかりと取り組むとともに、多様な学生に合わせた支援や適切な学校運営ができるよう取り組んでまいります。